

知ってほしい 一人ひとりの子どもの声 ～マイノリティの子どもたちのリアル～

今年、子どもの権利条約が国連で採択されてから 30 年、日本政府が条約を批准してから 25 年の節目の年です。また、国連で持続可能な開発目標 (SDG s) が採択され、「誰一人取り残さない」というスローガンが掲げられて 4 年が経ちました。子どもの権利条約でも SDG s でも、子ども若者の参加が中心的な考え方となっていますが、日本社会では、子どもが声を上げることに広く受け入れられているとは言い難い状況です。とくにマイノリティの子どもたちはさまざまな差別にあっているため、安心して意見を言うことが非常に難しいなかで暮らしています。国連子どもの権利委員会の日本政府に対する審査でも、マイノリティの子どもへの差別に対する対策の遅れが指摘されました。LGBT の子ども、不登校の子ども、外国につながる子どもたちも多くが、差別やいじめを恐れてありのままの自分を出せなかったり、不当な扱いを受けても「No」と言えなかったりしていますが、学校や教員、自治体や社会に対して何を望んでいるのでしょうか。国際子ども権利センター (シーライツ) が子どもたちと行ってきたワークショップで出された声や、当事者の子どもとかかわる若者の提言を、子どもの権利をベースにして考えたいと思います。

■ゲスト： 甲斐田万智子さん 遠藤まめたさん 彦田来留未さん



認定 NPO 法人国際子ども権利センター (シーライツ) 代表理事。日本ユニセフ協会勤務後、ブータン、インドに滞在し、後にシーライツに入職。カンボジアで児童労働・人身売買防止事業に従事。編著『世界中の子どもの権利をまもる 30 の方法』(合同出版)、共編著『小さな民のグローバル学：共生の思想と実践を求めて』(上智大学出版)、共著『児童労働撤廃に向けて』(アジア経済研究所)など。



トランスジェンダー当事者としての自らの体験をきっかけに LGBT の子ども・若者支援に関わる。LGBT ユースのための場所・にじず代表。著書に『先生と親のための LGBT ガイド～もしあなたがカミングアウトされたなら～』(合同出版)ほか。



東京シューレ非常勤スタッフ。絵本やイラストを描く自由アーティスト。小 4 から不登校、フリースクールとホームエデュケーションで育つ。「不登校の子ども権利宣言」を広める活動 10 周年記念の映画を今年発表した。

■日時：2019 年 12 月 14 日(土) 13:30~16:00 (開場 13:00)

■会場：文京学院大学本郷キャンパス S 館 7 階 702 号室

東京都文京区向丘 1-19-1 (南北線・東大前駅=2 番出口=徒歩 0 分、三田線・白山駅=A2 出口=徒歩 10 分、千代田線・根津駅=1 番出口=徒歩 10 分)

■参加費：一般 1,000 円/学生 500 円 当日受付にてお支払ください。

■主催：ソーシャル・ジャスティス基金 (SJF)

東京都新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 501 認定 NPO 法人まちぽっと

Tel 03-5941-7948、Fax 03-3200-9250、ホームページ <http://socialjustice.jp/>

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20191214.html> 事前にご登録ください。

